

2018年9月21日

6 大阪北部地震及び西日本豪雨での教訓について

(2) 自助・共助・公助の役割の見直しについて

○松本議員

次に、自助・共助・公助の役割の見直しについてですが、本地震後、多くの市民から市への意見を受けました。市としてどのように市民からの教訓を収集しようとしているのか、お聞かせください。

（略）

○井口総務部長

続きまして、質問番号6の（2）自助・共助・公助の役割の見直しについてのご質問にお答えいたします。

市には、地震発生直後から、さまざまなご要望、ご意見、お問い合わせなどが寄せられました。これら寄せられました市民の皆様の生の声をしっかりと捉え、今後の防災力強化の対策に生かしてまいりたいと考えております。

なお、今後、改めて市民アンケート等でご意見を集める予定は今のところございません。

（略）

○松本議員

次に、自助等の役割についてですが、寄せられた市民の多くの意見をしっかりと教訓に反映すべきと考えます。

さて、7月西日本豪雨において、真備町では多くの独居高齢者が亡くなられており、本市でも、淀川が氾濫した場合は、安威川以南全域の浸水が予想され、同様の危険性が考えられます。こうした方々の避難については、特に公助として備えるべきことがあると考えますが、福祉的な視点での考えや現状の取り組みについてお聞かせください。

○藤浦雅彦議長

保健福祉部理事。

○平井保健福祉部理事

福祉的な視点での考えや現状の取り組みについてのご質問にお答えいたします。

議員がご指摘のとおり、災害時におきましては、独居高齢者などの自力で避難するこ

とが困難な方をいかにして迅速に避難させるかが課題となっており、こうした方々に対しましては、近隣住民の方や協力機関を巻き込んだ情報提供が重要であると考えております。

また、現在は、福祉避難所の確保や茨木保健所等との情報連携などに努めているところでございますが、淀川の氾濫など、市域の広い範囲にわたり壊滅的な被害が及ぶ場合においては、二次医療圏など広域的な連携も重要かと考えております。

今後につきましては、大阪北部地震、台風21号での経験や西日本豪雨の事例等を教訓とし、災害時の公助のあり方について研究してまいりたいと考えております。

○藤浦雅彦議長
松本議員。

○松本暁彦議員
しっかりと検討していただければと思います。
ただ、私には、公助には限界があり、自助・共助の一層の強化も必要であると感じています。また、今回の台風21号も含め、もろもろの災害を受けての三助のそれぞれの役割をより明確化すべきと考えますが、どうお考えかお聞かせください。

○藤浦雅彦議長
総務部長。

○井口総務部長
公助・自助・共助の役割についてのご質問にお答えをいたします。
議員がご指摘のとおり、公助には一定限界がございます。日ごろから災害に備え、万一の際には自分自身や家族の身を守れるよう、家具の転倒防止のほか、非常時用持ち出しバッグの準備、避難ルートの確保など、自助に努めていただくことが何より大切でございます。また、避難所生活では、地域の皆様のご協力、すなわち共助も欠かすことができないと考えております。しかし、現状は、公助への過度な依存傾向も少なからずあり、課題の一つとなっております。この点を踏まえまして、自助・共助・公助の役割を含め、市民の皆様にご意識をさらに高めていただきますよう啓発してまいりたいと考えております。

○藤浦雅彦議長
松本議員。

○松本暁彦議員
ぜひ自助等の役割について明確化し、しっかりと周知していただければと思います。
自助・共助・公助がそれぞれの役割で最大限発揮されるとともに、連携することが被

害の縮減につながると考えます。よって、それぞれの役割について教訓を収集し、精査し、対策を講じ、例えば三助のあるべき姿を書いた防災ビジョンを作成するなどして、地域防災のあり方を明確化することを要望いたします。